

古戦場の歴史探訪と自然散策を楽しむ 賤ヶ岳

山岳の特徴



付近の観光



しずがたけ
421.1m

賤ヶ岳は羽柴秀吉と柴田勝家が天下分け目の合戦を演じた古戦場で、「賤ヶ岳七本槍」で名高い山である。長浜市の木之本町と余呉

町の境に位置し、琵琶湖と余呉湖の両方を望むことができる。琵琶湖八景のひとつに数えられる風光明媚な地で、木之本側からは登山リフトで手軽に山頂に立てるの



余呉湖畔から見た賤ヶ岳



賤ヶ岳山頂は余呉湖や琵琶湖を望む景勝地

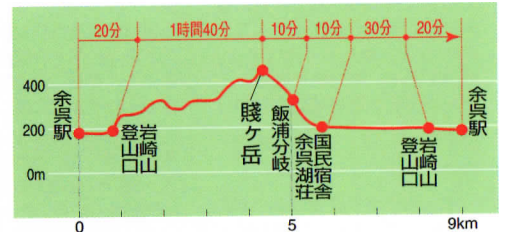
で、春や秋の行楽シーズンには観光客も多い。ここでは岩崎山登山口から登り、国民宿舎余呉湖荘に下るコースを紹介する。

JR北陸本線余呉駅から余呉湖畔の余呉湖観光館を経て岩崎山登山口へ。登山口から賤ヶ岳までは2・3kmだ。登山口付近には、アベマキとアカマツの林が広がり、急な登り道に階段が続く。

杉の植林が変わり、25分ほど登ると、賤ヶ岳登山口からのルートと合流する。ここからは読売新聞社の「遊歩百選」のひとつにもなっている、広く歩きやすい遊歩道が続く。途中、林道で分断され、再び遊歩道にもどると、ほどなく中川清秀の墓にたどり着く。杉の植林が多い道も、猿ヶ馬場を過ぎた辺りから、コナラ、アベ



賤ヶ岳山頂付近のアベマキ林の道をたどる



登山適期

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

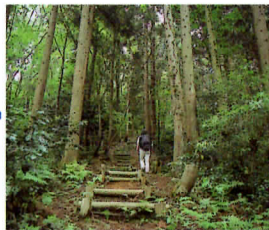


マキ、クリ、アズキナシなどの落葉広葉樹林に変わる。緩やかな登りで野鳥が多く、春にはキヒタキ、シジュウカラ、コガラなどが鳴き声を披露してくれる。道沿いにケヤキの大木が見えてきたら、賤ヶ岳山頂までは、1kmほどだ。ヒノキの植林とコナラ、アベマキの落葉広葉樹林の中を緩やかに登ると、ほどなく賤ヶ岳山頂に着く。北に余呉湖、南に琵琶湖を望むすばらしい眺めだ。山頂にはトイレもあり、行楽シーズンには、リフトで登ってきた人たち

が見事な眺めに見入っている。ゆつくりと登っても登るころには山頂に着くからここで食事をとろう。下山は国民宿舎余呉湖荘方面へと下る。10分ほどで飯浦と余呉湖との分岐「飯浦分岐」に着く。国民宿舎余呉湖荘までは、1km足らずの道のりだ。国民宿舎余呉湖荘の前の道を余呉湖を眺めながら余呉湖観光館に向かう。春なら湖畔に咲くカラシナの花を眺め、冬には、湖面に浮かぶカモ類を眺めながらの散策が楽しめる。

(青木繁)

チェックポイント



① 余呉湖畔からの急な登り



② 観音堂からの道の合流点



③ 中川清秀の墓近くの遊歩道

登山シーズン

登山シーズンは春から秋。余呉湖は四季折々に趣が異なり、1年を通して楽しめる。

ワンポイントアドバイス

* JR北陸本線余呉駅下車。マイカー利用なら、余呉湖観光館に車を止め、ここから歩く。

* 賤ヶ岳は、本能寺の変で没した織田信長の仇を討った羽柴秀吉と柴田勝家が戦った古戦場。中川清秀は、茨木の城主で、秀吉に味方してここに砦を築く。しかし、勝家方の佐々間盛政の

奇襲に遭い、全滅した。秀吉の反撃で忠臣・毛受兄弟を失い破れた勝家は越前北ノ荘に逃れ、お市の方と自刃して果てる。

* 賤ヶ岳リフトの乗車時間は約6分。リフトに沿ってハイキングコースもあり、登り約30分、下り約20分。

* 岩崎山は余呉湖畔に大岩が突出し、賤ヶ岳の合戦では高山重友の砦があった。当時の大岩は道路拡張で取り除かれ、今はない。

* 交通機関利用なら、賤ヶ岳から大音に下山し、JR北陸本線

木ノ本駅に向かうのもよい。

* 国民宿舎余呉湖荘から、余呉湖の西を回り、羽衣の柳を通って戻ることできる。

問い合わせ

長浜市役所 ☎0749-62-4111、奥びわ湖観光協会 ☎0749-82-5909、余呉トレイルクラブ(ウッディバル余呉内) ☎0749-86-4145

2万5000円

木之本